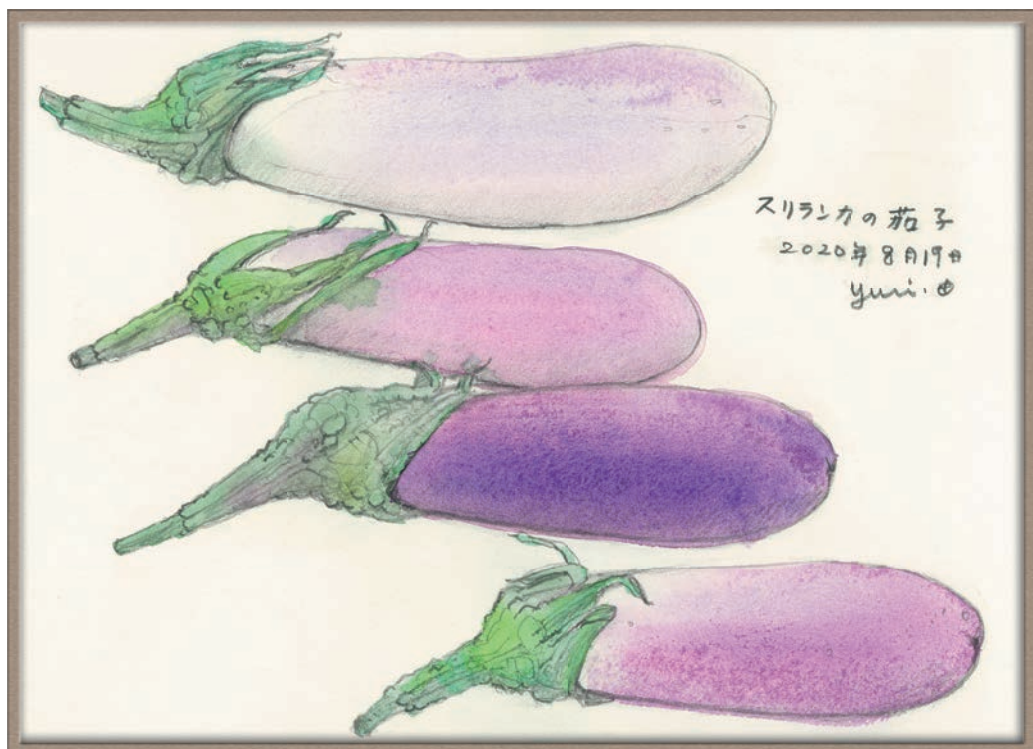


三河 アララギ

2020年 9月 長月 ながつき

九 月 号

第 六 十 七 卷 第 九 号



ニューヨーク日記(167) <http://blueshoe.copetin.com/>

BlueCat, Shoe Lady

BLOWFISH HOTPOT

Blue Shoe Diaries



ふぐと言うと日本人以外は大体この顔🐡をします。毒が有るから死ぬ。って思うんですね。テレビとかでもふぐを食べる様な事が有るところは肝試しみたいな感覚で写してますね。日本では料理人さんに任せておけば何の心配もしないで普通に食べに行きますよね。逆にお腹に優しい、落ち着く食べ物って思っちゃってます。ふぐづくしディナーで絶対がふぐ刺し、白子焼き、ふぐちりのシメに雑炊を食べるのが一番楽しみかも。それからひれ酒もね。

People know that blowfish/pufferfish have intestines and liver that is poisonous enough to kill you (and fast) but it's so commonly eaten (prepared by licensed professionals) that that thought hardly ever crosses a Japanese person's mind. So no freaking out. We enjoyed an everything-blowfish 🐡 dinner which was delicious. The skin (full of collagen?), sashimi (it's really for the clean flavor and texture), grilled on a shichirin, baked shirako, and hotpot. Where the blowfish flesh was still moving 🐡. With the broth from the hotpot, add rice and some eggs and finish the dinner with a nice zosui. mmmm ☺

目次

第六十七卷第九号(通卷八〇一号)

表紙・スリランカの茄子	今泉 由利 (1)
ニューヨーク日記(167)	Blue Shoe (2)
アカンサスの徑	御津 磯夫 (4)
ははきくさ	大須賀寿恵 (5)
歌集「續々草々」	今泉 米子 (6)
ははきくさ	河原 静誠 (7)
心こめて	岡本八千代 (8)
梅雨空	弓谷 久子 (10)
「菌安居」	今泉 由利 (12)
巣立ち	安藤 和代 (14)
夫も吾も娘も	清澤 範子 (15)
読めぬ先	伊藤 忠男 (16)
観測衛星「ぎぼう」	矢崎 直人 (17)
マスク	森岡 陽子 (18)
大和路	白井 信昭 (19)
三河湾	杉浦恵美子 (20)
敵重警戒	阿部 淑子 (21)
音羽川	山口千恵子 (22)
梅雨明けを待つ	夏目 勝弘 (23)
『ことよせ』	いーはとぶ
	石田 文子 (24)
	森 厚子 (24)
	山崎 俊子 (24)

贈呈誌	三田美奈子 (24)
童話	水野 絹子 (24)
カエルくんからの招待	牧原 規恵 (25)
高橋 育郎 (30)	稲吉 友江 (25)
松本 周二 (32)	鈴木美耶子 (25)
山元 正規 (32)	吉見 幸子 (25)
田中 清秀 (32)	牧原 正枝 (25)
浜田 紀政 (33)	池下 凌生 (26)
	油谷 佳苗 (26)
	三好 大和 (26)
	伊藤 智美 (26)
	植梶 香織 (27)
	小笠原弘舜 (27)
	由岐中夢大 (27)
	山下 優貴 (27)
	森岡 陽子 (28)
『俳句』	現代学生百人一首 東洋大学

かさね吟行会	森岡 陽子 (33)
『酔いの徒然』(101)	重野 善恵 (33)
楽しい時間(94)	植村 公女 (34)
絹の話(118)	木村 歩歩 (34)
本田カイロプラクティック先生の春夏秋冬	今泉 如雲 (35)
『江上浩二の独り言』	今泉 由利 (35)
漢詩研修(四十七)	丸山醉宵子 (38)
『父』	山本紀久雄 (40)
疫病禍下の後藤新平を思う	今泉 雅勝 (42)
仏像彫刻(八)	本田 勇氣 (44)
見る(3)	江上 浩二 (46)
「氷魚」のことから(236)	平井 茂行 (48)
編集室だより(二〇二〇年七月)	中屋 保之 (50)
野菜・果物・まんだら(31)	横山 精真 (52)
「三河アララギ」について	藤崎 徹 (54)
	夏目 勝弘 (56)
	岡本八千代 (57)
	今泉 由利 (58)
	(59)
	(60)

アカンサスの徑

御津磯夫

歩み危ふく寄れる窓より生きのこる活きゐる鉢のいくつを見たり

仰臥して読むには厚く重すぎるたまりし雑誌新年号各種

いらだてばまたいたみくる手術痕知りつつ床の中にてもかく

一月の二十五日の午後に鳴りし二つばかりの春の雷

過ぎ去りしわが半年の空白を埋めむすべくなほ臥しつづく

痛みには慣れといふこと無きごとし横坐りさへ耐へがたくして

あきらめてのうのうと臥してゐるならず一日一日が惜しくてならぬ

寝てゐるはもう嫌々と思へども起きて坐れるわれなららくに

天気などに負けてはなるかと説きしかど雨くるといふ日にはわが泣く

三人の吾が子ら医師となりしかばかたみにわれを診に来たるなり

ははぎくち

大須賀寿恵

印刷の紙に切れたる中指を嘗めつつ要項一〇〇〇部刷り上ぐ

朝より午後に続きし会終へて駅前書店に手相学買ふ

十五年勤め続けて来し吾よ今日は会議のお茶も汲みゐる

四階の吾が事務室に黄葉せる銀杏古木の一鉢があり

基礎代謝検査の結果を待ちゐるに吾の外には椅子ばかりとなる

待合室の蛍光灯は消されゆき吾の頭上の一つ残さる

人事異動案まとまりし今宵吾等十人鍵をおろして原紙切り初む

乱れ咲くコスモスの花粉さけながら吾が日曜日のおふとん干したり

事務室に一夏を越え花枯れしアナナスは柔き緑の芽を出す

数珠玉はなめらかにしてこそばゆし数珠玉入れて子の手玉縫ふ

歌集 「續々草々」

今 泉 米 子

鉢に植ゑてたもつ一本のハカランダ細かき羽状の緑さやさや
待宵草群がり咲ける花明かり背を伸しつつ深呼吸する

放してより十年あまり年々にダチュラの下の鈴虫のこゑ

この暑さいつまでと歎きゐるときに細葉擬實珠の花茎のたつ

ヤブレガサ二本の傘と萌えし鉢思ふも共にはるけくなりぬ

草叢より秀でて青紫蘇に立つ花穂開きそめたるを二つ三つ摘む

石材店は自然巨石を集め積む弓張山脈の端山削りて

引馬野の榛原の歌遺すべき碑の自然石つひに決まりぬ

白萩にまた紅萩の咲き撓む同じきをわが言ひ合ひぬ

黄の赤の光を放つ曼殊沙華わが草庭の栄えはこのとき

ははぎくろ

河原静誠

病棟のかこむ中庭明けそめて泉水に緋鯉の飛び跳ねるみゆ

吉水の法灯うけし興福院に友らつどひて語る過去の日

念仏の声寂かなりし興福院の裏のドリームランドのジャズの聞ゆる

十王堂の庭に立ちます六地藏示したまへや六道の辻

腸管の癒着の痛さ今更になげきなげきて起き臥すわれは

幾度か手術をうけて戦ひ来し病に今日もいどまむとする

かにかくに腐りし腸をかかへつつ今日も呼吸を吾はつづくる

病巢に障る仕事と知りながら来し十年の保育をぞ想ふ

たまはりしみやこわすれの咲き始めてわが枕辺に春風の吹く

釈尊の涅槃の日なり病床に遺経誦しつつ一夜明かしぬ

心こめて

蒲郡 岡本八千代

心こめてけふの一日も活ひとひしたし老いの独ひとりの自由のわたくし

今日もまたわれ独りなりなにはなし老いの孤独たのの愉しさの中

本よみてはやくも更け夜の二時となりいつしかわれの癖くせとなりつつ

茂吉全集第一巻を手にとればずっしりと重しこの重量感よ

背文字の銀色は金に光るごとつくづくと見てをりこの第一巻を

なんとなく今日の私わた落ちつきで「赤光」の中の「をさな妻」読み出す

「をさな妻」やがて茂も太さん杜もり夫さんの母上となりし輝てる子さまなり

茂太さんも杜夫さんも精神科医なれど有名なるものかきにして

茂太さんも杜夫さんも天あまつ人鳴呼あわれの信しんじる自然じねん法ほう爾にか

籠こもり部屋へやにゆかむとするに驚おどろきぬむくげ二花にのま白しろにその花

わがわが權いっぴら五弁ごべん白しろき花はなにして今日けふ降ふる雨あめに白しろ光ひかりりししつつ

今日もまた独りの部屋にこもらむとムクゲ白花の前を通りぬ

珍しく東京の娘より電話あり「常々きれいな下着着てみてね」

今朝もまたモーシヨンスローの我にして淡々として朝餉の支度

夕刊を配りくる少年に会ひたれば必ず声かける「ありがたう」を

梅雨空

豊川 弓谷 久子

観測史上初めてと聞く大雨に災害続きをり九州地方

豊川市にも大雨警報豊川の水位如何にと心配つる

子の編みしおり姫ひこ星飾りたり今年も雨の七月七日

岡井隆氏死去と今朝の新聞紙上同年なれば思いは深し

蒲郡俊成歌会に講演を聴きしも遠き日となりぬ

新聞に連載されぬし「今朝のことば」朝毎読みたり楽しみにして

岡井氏のその功績の数々を今更に知る今朝の新聞

我が庭も夏景色となりぬコスモスも百日紅も咲き初めにけり

早咲きの朝顔咲けりとりどりの色と数を楽しませくるる

ひつそりと逝かれし君をひつそりと憶いてゐたり雨のひと日に

お花見の思い出等を語り合ひし君逝き給ふ数え百歳

新しきエアコン付きたり猛暑にも酷暑にも耐えむ備え万全

向日葵の花咲き揃いぬ我が手にて育てしものこのいとしさよ

南から北まで大河を氾濫させてこの梅雨空よ何時まで続く

うす曇る空に響きて蝉時雨梅雨明け遅し文月終る

「菌安居」

東京 今泉 由利

電線のか細き影を頼りつつ権現山の坂道登る

「うやんご雨安居」の真似をしている「菌安居」籠れる日々の安穩にあれ

カシオペヤ座・北極星の方向にてペルセウス座流星群の星流れ来よ

崩れ落つモレノ氷河の轟の蘇りくるこの一つ夜に

快樂でも苦でも無くしてその狭間「ひと人間」の在るべき姿にをらむ

二五〇〇年を遡るさかのぼ十二月八日人間ブツダの誕生日

ヒマラヤの山脈の麓ネパールの釈迦族の王子であり、ブツダ

「生老病死」生きる苦悩の解放を瞑想したまふ悟りに至る

玄奘の漢訳經典七四部一三三八卷學問仏教の成り

日本語と読み得る漢字の印されてくかわらけく出土ゴビ砂漠より

インドよりシルクロードを西域を中国朝鮮半島そして日本

推進を風に求むる遣唐使船命をかけて運ばれしこと

マリアナ海溝の深く深くへ潜りゆく自粛籠りに見る映像は

三百度の熱水噴出孔にして新たな命始まる見守る

朝も昼も夜になつても彫りつづく檜正目聖観音立像

巢立ち

豊川 安藤 和代

今朝も又白い犬つれ老人が我が家の百合をほめて過ぎゆく

肥づきし稲田吹きくる風清か巢立ち準備のつばめ等の声

そして朝巢は静かなり水無月の空どこまでも晴れわたりおり

六月が好きと言う友紫陽花としようぶ咲かせてにこやかに立つ

花好きの友をまねても老いの身は鉢も重たし水も重たし

鉛筆は2Bがよし吾の手にやさしく歌もさらさらと書く

一ミリに未たぬ鶏頭の種を蒔く水無月の雨柔らかに降れ

保母たりし昔の心捨てられず道行く幼の声にときめく

苦瓜はひと夜五センチ伸びている負けじと吾も背伸びしてみる

長竿に葱を刻みて昼ひとり素麺つるつる小さき幸せ

日曜日夕餉はカレーと決めてありバアチャンカレー野菜ゴロゴロ

夫も吾も娘も

春日井 清澤 範子

梅雨入りの発表ありて翌日の三十七、三度の猛暑日

今日もまた暑くなるとしてシルバーカーの散歩は明け方涼しいうちに腰痛をかかえながらに吾が夫は西洋かぼちやの苗を植えたり

毎日の畑を見ては大きくなる様子を吾に話す夫なり

庭の木に蝉はなくなり初蝉の声夫も吾も娘も聞きぬ

前線の内に入りて真夜中にバケツあけたる程に雨ふる

嫁ぐより仕事選びし吾が娘休日は車にて米運びくるる

車にて吾を医院に送り来て手を握りくる娘のやさしさ

五十年会わず友なり吾が声を聞きたしと言ふ電話懐かし

今宵の月は天高く煌こうと光あり私の心を照らす如くに

読めぬ先

大阪 伊藤 忠 男

ミーティングコロナで変わる画像声途切れ途切れにもどかしきこと

コロナでは検査と隔離誤りと異論奇論のかしましきこと

ボランティア行くに行けない県跨ぎ移動を止めるコロナウイルス

十年に一度のはずの水害に毎年出会う時の速さよ

危機備え早すぎ無しや身の危険いつ起こるとて不思議では無し

水嵩の増える速さに追い付かぬ先ずは守らん命だけはと

雨に風雷コロナひたひと迫るを知らず朝目覚めたり

目の前を土砂が流れる無力感命ありても明日があるのか

衛星で危険迫ると知りながら学習効果無きか今年も

晦日とて終わりは次の始まりと明日は葉月か気持ち切り替え

観測衛星「きぼう」

東京 矢崎直人

梅雨湿り金魚に海の雫落つ海の匂いを覚えているか

新宿の階段の場所変わり行き改札分ならず右往左往と

コロナ前の生活遂に戻れずも前向きながら歩いて行こう

危機意識気づけることがSDGs 2030 10年後来る

丸眼鏡雲間に探す天の川流れる雲に晴れてる隙間

彦星と織姫の幸願う人祈り届くの見届ける人

あの丘で子どもの頃に遊んだね森林公園今も変わらず

大声で駆け回ってる子どもたち心と体の解放を知る

泥の道転ばぬようによろよると家族一列並んで歩く

音もなく観測衛星「きぼう」行く吾を大きな月が見ていた

マスク

東京 森岡陽子

バス降りるマスクの中に香り来て梔子の花甘くやさしい

真新し下ろしたてなるスニーカー夏の日射しにまぶし白し

乗客に見守られ育つ燕の子駅の構内三羽口あく

酒樽は入口横にテーブルに路地裏のカフェソーシャルディスタンス

角打ちの店のメニューは大皿の氷の上に胡瓜並びぬ

石段を登り行く程あぢさいの花溢れ出す観音堂に

緑蔭の無骨な石に荷を解ほどき汗をふいたり水をのんだり

アマビエにすがり祈るも効果なくコロナの感染まだ広がりつ

手作りのマスク友より頂くは服に合せて一時御洒落

やったぞと鴉は蝉をくわえをりプルプル振りて見せびらかすや

奈良大和路

豊川 白井信昭

山幾つ山脈越えき県境のいつしか空は晴れてしまえり

コロナ禍の早期収束を本殿に拝み参らす砂ずりの藤

初めての秋篠寺は勅願寺苔むす庭みどり絨毯の如し

講堂の仄か暗める中に聴く住職の解説仏像背後に

行き帰り我らの一行花めでるミヤギノハギにカラタチの花

世界遺産唐招提寺鑑真の開きし寺と初めて参る

俳優の名でさえ今は忘れけり鑑真和上の名場面おぼろ

青青と緑に囲まる金堂の基壇の上にエンタシス柱列

遙かなるシルクロード伝え来て古代ギリシャの建築技法

薬師寺の塔の影ふたつ街中に見えつつバスは帰りゆく道

三河湾

蒲郡 杉浦恵美子

本の山一日埋もれて倦むことなしさらりと仰有る師畏るべし

大雨の最中に縦ぶ睡蓮の黄色鮮やか傘差して観る

くしゃみして思はず辺りを見回はす独り暮らしもコロナ禍には

長雨が止めば為すこと限りなし墓掃除あり草取りもあり

長雨の間に雑草生えにけり踏み入る膝を覆ふほどまで

コロナ禍に来信ありき差し出しは那須高原より大昔の友

友ありき疾風怒濤が傍目にも案じられたる彼にてありき

三河湾友が外つ国焦がれたる同じ海見ゆ刻を隔てて

三河湾望みて異国に憧れし友は遂にぞ欧州へ発つ

無難なる仕事を捨てて我が友は道を求めて外つ国へ行く

我が友よ我が旧姓しか知らぬ友よ長き隔たり如何に満たさん

厳重警戒

横浜 阿部 淑子

半年ぶり観客入れての夏相撲応援の拍手揃いて力に

入浴剤温泉気分で汗流し湯殿に上がれば天然冷水

雨降るもかまわず歩く我を見て「カゼひかないで」と声掛く幼子

梅雨あけが待ちきれないか鳴く蟬もカラスの声にすぐに鳴き止む

高気圧の張り出し弱く前線は衰え知らず水害多発

久々に予報に反し空を行く白雲の群スピードアップ

新型コロナ全国各地に拡がりて厳重警戒祈る終息

音羽川

豊川 山口千恵子

揚羽蝶しばらくとびてゐたりしがいつのまにか姿の見えず
サボテンの鉢に水をかけてやるかわきし土に水しみこむ音
風吹きてさざ波田水をうつりゆく植田の稚苗色まして見ゆ
音羽川水なみなみと流れゆく住みゐし鯉は何処にゆきしか
網戸ごし涼しき風の吹きてくるしばらく風にあたりてをりぬ
わがダチュラ勢ひよくてみどり濃し小さき苔いくつも見ゆる
スタスタと足音かるく走りゆくうしろ姿をしばし見て立つ
曇り日をよろこび自転車走らせることを曲がればいつものスーパー
瑞々しき小菊の束をもらひたり黄菊白菊ピンクもありて
尖りたる赤き蕾一つつけミニ蓮伸び来し丸葉しのぎて

梅雨明けを待つ

豊川 夏目勝弘

目覚めたる闇に雫の音きこゆ三日つづきの闇の音なり
縄文の人らと同じ土地に住む災害少なし安らぎてをり
軒を打つ激しき雨音つづきをり恐れ戦く人びと思ふ
海拔が三十数メートルの家に居り泥と戦ふ人びと浮ぶ
ネムの花雨の日つづき咲き出づる花はことごと白き色なり
見るでもなきテレビの前にて本を読む天気予報に視線を移す
雨マークつづく週間予報なり地図にて辿らんおくのほそ道
雨の日のつづく一日を酒の当クルミを噛^{あて}る縄文人忍び
雨の降る夢を見しことなきなどとフト思ひつくそれだけのこと
雨の日のつづく庭の雑草はイネ科が特にいと多くして
裏庭はアシボソなるがひとりじめわがもの顔に庭土を覆ふ

『いよよせ』

西浦公民館 いーはとぶ

縞模様花柄もあり色とりどり孫の作りしマスク楽しむ

石田 文子

梅雨の中三十度越えし日の続き暑さとコロナにわれはくたくた

森 厚子

コロナ禍に券持ち寄りてマスク買ふ公民館にて熱はかられて
向暑なれど手作りマスクをわたしもおしゃれハンカチにはさみを入れる

山崎 俊子

まただれかの靴音ちかづく路地道に帰り来る子を待つ猫と我
風そよと椎の花降る陵のその白き道こほごほ恐々歩く

三田 美奈子

弟の逝きし七月くちなしの白花供へて泣きしかの夏よ
在りし日の弟のおもふ梶子の花の咲くたびわが目のうるむ

幾重にも人の営み重ね来し鳩の海ゆく波の揺蕩ふ

水野 絹子

湖渡る風をつくりし砂浜よ辛いかな甘いか思ひ含まむ

剪定の足場の高さにわれはまた足の震へに驚きてをり
初孫の成長見守るわが友のやさしき笑顔に心ほのぼの

牧原規恵

わが町も過疎化の波の寄せ来るかだあれも居ない昼の公園
幼から少女になりたる我が孫よちよっぴりおませな稚さにエール

稲吉友江

君の母私の母とは仲良しにて紫陽花の花愛でてゐたりき
うたた寝の私の耳にホーホーと啼く声聞こゆフクロウかしら

鈴木美耶子

起きがけに五分体操続けをり気分さわやか一日の始まり
深夜便今宵流るるメロデーとアナウンサーの声もなめらか

吉見幸子

見渡せば草いちめんの畑なかへ鋤で起こして空気送らな
キウリ延びピーマンひとつ実のつきし草のなかでの一ヶ月余りか

牧原正枝

現代学生百人一首

東洋大学

いざ決心テスト報告LINEにて既読になれど母、返事なし

東洋大学附属姫路高等学校一年（兵庫県）

池下凌生

「あいつうざい」悪口ツイート見るたびに私のことかと悩んでしまう

西宮市立西宮東高等学校一年（兵庫県）

油谷佳苗

祖母の手にシワが増えたと感じた夜そつと自ら洗い物する

広島県広島工業高等学校二年

三好大和

いつの日か我が身に起こる老いること我が身のように清拭やさし

広島市医師会看護専門学校医療高等課程二年

伊藤智美

三十路過ぎ化粧禁止で学びます今日は誰にも会いませんように

広島市医師会看護専門学校医療高等課程二年

植^{うえ}梶^{かじ}香^か織^{おり}

海浜に無数に開いたかきの穴帰っていくよみな足早に

山口県立豊北高等学校二年

小^お笠^{がさ}原^{わら}弘^{こう}舜^{じゆん}

テレビ観て異常気象に文句言うボクらの暮らしが原因なのに

徳島県立城東高等学校二年

由^ゆ岐^き中^{なか}夢^{ゆう}大^と

「もう寝よう。」その一言が送れずに気付けば今夜も日付が変わる

香川県立多津高等学校二年

山^{やま}下^{した}優^{ゆう}貴^き

贈呈誌

森岡陽子

秋楡 第一〇八号

○鏡のなかの鏡が誘くその奥に終にもどれぬ吊り橋の揺る

三原香代

○夕暮を孤り黙して草をひく語らいながらは茫き日のこと

杉山千里

○木々の根と草の根つよく絡みあう庭の上占むる四季の花たち

木村郁子

月虹 134号

○一羽去り一羽来りて生り年の茱萸はあまたの命養う

保坂征子

○南半球の夏を恋ひしむいとまなくふた月ぶりの夏に身を置く

井村喬泉

○こんなにも冴え冴え蒼き五月晴れコロナはいつかと眼を凝らしみる

山口京子

冬雷 8月号

○向かうから樹の根に鳩がちよこちよこと小枝啞へて歩みくるなり 池亀節子

○伸びきらぬ早苗の上をスイスイと燕は軽く舞ひ降りて来る 三木一徳

○年重ね過ぎゆく日々か古里の味が無性に恋しくなりぬ 山崎英子

○明け方の雨に打たれる侘助の最後のひと花咲きて濡れるる 西谷純子

○丘に立つ頭上にぽっかり雲二つ届きそうなりこの手伸ばせば 川上美智子

○土ふかく潤す雨の一夜にて西瓜は勢いぐんと伸びたり 松中賀代

○仲間より分けられて咲くどくだみ草八重咲きゆえに嫌われもせず 加藤富子

○大鷲はソーシヤル^社テイスタンス^{会的}保つやにゆらり歩みて釣り人を避^よく 松本英夫

○暑き日を田の道歩けば心地よき青葉風吹き水面の揺れる 水澤夕力子

童話 カエルくんからの招待

高橋育郎

耕太くんが中学一年生のときでした。理科の時間に先生が「カエルのかいぼうをしましょう」といいました。耕太くんは、学校の帰り道に田んぼのカエルをさがしながら帰りました。

そこには、おたまじゃくしがたくさんいました。

耕太くんは、おたまじゃくしを飼いたいと思います、休みの日におたまじゃくしをとりに行きました。そこで3匹つかまえて金魚鉢で飼う事にしました。次の理科の時間に先生は「カエルのかいぼうは、むずかしいし、かわいそうだからミミズのかいぼうに変えましょう」といいました。それでカエルをつかまえてもいいことになりました。耕太くんは、よかつたなと思ひ、ほっとしました。そして金魚鉢のおたまじゃくしを、玄関の下駄箱の上に置きました。

こうしてカエルが成長していくところを、かんさつするのことにしたのです。まいにち学校から帰ると金魚鉢のなかをのぞきこみました。おたまじゃくしは、だんだん大きくなつていきます。

5日くらいたつと、うしろ足がニョッキリはえてきました。それからまえ足が生えてきて、しつぽがだんだんちぢまってきました。

耕太くんは、金魚鉢の中に大きな石ころをひろつてきて入れました。

おたまじゃくしは、しつぽがちぢんでくると、おなかとおしりが、ふくらんで、やがて顔もカエルのようになってきました。そして、すっかりカエルらしくなりました。

耕太くんは、カエルになったカエルくんを「おはよう」とあいさつして「それでは学校へいってくるからね」といって、

これからカエルくんと、お話ができるなと思つて、うれしくなつてでかけました。

それから一週間くらいたつたでしょうか。今日もカエルくんとお話できるのが楽しみです、元気いっぱい学校から帰つてくると、金魚鉢の中にカエルくんがいません。

耕太くんは、びつくりして庭の草むらをかきまわしてみましたが、みつかりませんでした。

耕太くんは、せっかくカエルくんと、お話ができるのを楽しみにしていたのに、いなくなつてしまつたので、悲しい気持ちになりました。

鉢に入れた石の頭が水面から出ていたので、カエルくんたちは、石の上のぼつて、外へとびだしてしまつたのです。

カエルくんたちは、どこへ行つてしまつたのだから。田んぼまでは、200メートルくらいはなれていますから、ちゃんとしてたどりつくことはできただろうかと心配になりました。もう少し大きくなつたら、たんぼまでつれていってあげたのにナ。カエルくんともう少し、おはなしがしたかつたんだけどナ、と思ひました。

その晩は、星がたくさん出ていて、とてもきれいでした。耕太くんは、三匹のカエルくんが無事にたんぼまで帰れたかどうか、心配しながら、いつのまにか眠っていました。星がきれいな夜でした。

「耕太くん、耕太くん」だれかのつぶやきが聞こえました。静かな夜ですから、よく聞こえます。あたりをきよろきよろまわすと、三匹のカエルくんがいました。

「耕太くん こんにちは。ほくたちをカエルにしてくれて、ありがとうございます。お札に 耕太くんを星祭にお呼びしたくて、やってまいりました」

「それはありがとう。星祭ってきつと楽しいだろうな」耕太くんは、うれしそうに顔をのべています。

カエルくんたちは、顔を見合わせ「よかった。よかった」といって「それでは これから星祭に出発します。いっしょに行きましょう」

するとふしぎなことに耕太くんは体がかるくなつたかと思うと、ふわつと浮かびあがった感じがして、いつのまにか空中を飛んでいました。そして、たちまち田んぼにきてしまいました。

そこには、カエルくんたちがたくさん集まっていました。みんな色とりどりの衣装を着て、それはそれは賑やかでした。そして、耕太くんを歓迎しようと、まわりに寄つてきました。みんなの「ありがとう。ありがとう」のありがとうコールがわき起こりました。

耕太くんは、びつくりするやら、うれしいやらで大きな声で「ありがとう」といいました。

すると20匹ほどの一団が、手に手にフルートやピッコロ、オーボエなどをもつて現れました。

指揮者が指揮台上がり、タクトを振るとオーケストラがいっせいに高々とメロディーを鳴らし始めました。夜空いっばいに広がる星たちが、歌うようにきらきらと輝きはじめました。耕太くんも目を輝かせて、聞いています。

「なんて素晴らしい夜なんだろう」おもわず叫びました。

オーケストラの演奏が終わると、続いて合唱団の登場です。「これから、『おたまじゃくしがカエルになった』を歌います。どうぞ聞いてください」

司会者の声で、歌が始まりました。おら

あとあしはえたよ ほらごらん

こんどはまえあし ニヨッキ ニヨキ

しつぽがだんだん ちじまつて

おたまじゃくしが カエルになった

ピョンピョン ケロケロ ピョンピョンピョン

まえあしさきまで ぐんとのぼし

あとあしうしろへ ポンとける

みずのなかでは かっこいい

カエルおよぎで とくいのポーズ

ポチャポチャ スイスイ スーイスイ

カエルになれて、うれしいな

きょうはたのしい 星祭

一番星の できるころは

みんなあつまり ピッコロふくよ

ピコピコ ピイピイ コロロンロン

歌声は続いて、耕太くんもいっしょに歌いました。

カエルになれたうれしさを歌っているのです。それは、いのちの讃歌です。

それから、また音楽が鳴って、みんなは踊りだしました。にぎやかな夜はふけていき、だれかが「お星さま、ありがとう」と星に向かって声高らかに叫ぶと、また続いて、ありがとうコールが、いっせいに響き渡りました。歓喜の歌声は最高潮になって、夜は静かにふけてゆきました。やがて東の空が白みはじめてくるとカエルくんたちは、ねぐらへと帰っていきましました。(おわり)

『俳句』

仕掛筒川に流して土用入

松本周二

風鈴や伊万里の風の甦る

工場の吐き出す車列大夕焼

日盛や百葉箱の白格子

山元正規

平凡に勝るものなし茄子の花

正午告ぐラジオの時報終戦日

蝸牛行先知らぬ一人旅

田中清秀

花柘榴ご朱印帳の手織縞

実桜や風平らかに心字池

一村づつ照らして西へ夏の月

浜田紀政

花木槿四つ辻ごとに石地蔵

滴りの流れに添うて鳳凰苔

鳶の人トラック横の三尺寝

森岡陽子

車道まで這ひ出す虫や梅雨晴間

主なき屋敷の木戸に黒揚羽

蛞蝓殺生御免と塩攻めに

重野善恵

夫の着物土用干しして四十年

堀越しにブーケの如き凌霄花

地境や石の割れ目の竹落葉

植村公女

ささやかな暮らし続けり茗荷の子

長考の一手パチリと夜半の夏

腹を見せ頭を沈め鵜の骸むくろ

木村歩歩

歩を止めん羽黒とんぼ居て水光る

夕日落つ大仙院に沙羅の花

木漏れ日に羅漢が笑う夏の寺

目にしみるほど緑なり目屋の村

今泉如雲

浴槽は津軽のヒバや土用入り

八戸はちのへの鯖ごのへに五戸ごのへの純米酒

文月や国会図書館ありし跡

今泉由利

鴛とぎ色の貧乏蔓花ざかり

鶴首えのころぐさに狗尾草のおもてなし

ひとところ風たつらしき蓮裏葉

子規句集

名も知らぬ大木多し蝉の声

送られて別れてひとり木下闇

何神こけか知らずひわだの苔の花

行く秋の我に神無し仏無し

二つ三つ木の実の落つる音淋し

かさね吟行会

「大倉山公園」 7月

田中清秀

はサクラは少ないが、クスノキなどの雑木林が並び腰掛
け石やベンチが置かれ、とても静かで人かずも少なく、
車や電車の音も聞こえてこない。

降り出して桜若葉のさはぐ空

清秀

三寸の川で雀の水遊び

周二

以前、ここは太尾町（ふとおちよう）と呼ばれていた
が二〇〇七年から住所表示が変更されて大倉山となつ
た。東横線の開業時の駅名も太尾駅だった、現在、各駅
停車の駅では、一日の乗降者数が五五〇〇人余と沿線で
最も多い駅となっている。今回のかさね吟行会はこの大
倉山駅に集合し、近くの大倉山公園と太尾見晴らしの丘
公園に至る稜線沿いの道を散策した。

令和二年七月10日、梅雨の雲が厚くおおい今にも降り
出しそうな空模様だった。大倉公園までは急な登り坂道
が続くのでタクシーを乗り合わせて丘の上まで行くこと
とした。この周辺は住宅街で、遠くに高層マンションが
見られる閑静な明るい町並みが広がっている。見晴らし
の丘は深い木々に囲まれた自然公園であり、ハナミズキ
の並木や遊歩道にツツジやヤマボウシが枝を広げてい
る。さらに入口広場から記念館前広場へと続く。広場に

奥に進むと北側の谷戸地に、有名な大倉山梅園が広
がっている。山里を思わせる梅園で三〇種二百本の梅の
木が植えられており、近郊では屈指の梅の名所である。
開花時には観梅会が開かれ多くの花見客が訪れるが、今
は梅見の頃とは違って、手入れの行きとどいた梅の枝に
は濃い緑の若葉が茂り、下草も綺麗に切りそろえられて
いた。池と四阿が配され、地を這うような古い幹や端正
な気品漂う若い木も多い。また、枝に野梅（やばい）の
名札が多く見られた。野梅は一月から二月に美しい白い
花を咲かせる花梅（はなうめ）で、枝は細く花も葉も小
さいがとても良い香りがあり、人びとの心を和ませてく
れる。そんな梅の香をなつかしみながら、のんびりと四
阿に腰を下ろし、足を伸ばして穏やかな池面を眺めなが
ら句作に入る。

静かなり亀に追はるる水馬
歩くかに濁る池面のあめんぼう

紀政
陽子

梅園の谷戸地から大倉山記念館へは、やや急な坂道を登って戻る。ギリシヤ神殿を思わせる堂々とした建物で、プレヘレニック（前ギリシヤ）洋式で設計され、大倉精神研究所の本館である。また、横浜市の有形文化財にも指定されている。この建物を建てた大倉邦彦氏は佐賀県出身で大倉洋紙店に入社、社長大倉文二に見込まれ婿養子となりその後社長として事業を大きく発展させた。実業家であり、教育家でもあって私財を投じて学校も開設し、東洋大学の学長を二期六年にわたり歴任している。同氏の遺志を受け継いで、今も人文および社会科学に関する調査研究をここでは続けていると言う。

記念館かすかに見えて梅雨の坂
造り滝だけの閑さありにけり

さち子
正規

「造り滝」「桜若葉」「あめんぼう」はみな夏の趣がある季語。また、今年には異常に梅雨が長い、大梅雨、荒梅

雨、梅雨滂沱の如く、なんとも鬱陶しい雨空が続く。さらには、地域によっては記録的な豪雨で、崖崩れや荒れ狂う河川の氾濫によって甚大な被害が発生している。改めて大自然の驚異と社会の脆弱性を実感させられる。そんな大変な時でも、色々な季語を生かして憂鬱な気分にならずに楽しい俳句を作っていきたいものである。

句会はこの大倉山記念館を使って行われた。応接間風の立派な会議室だったが横浜市の公共施設なので安価に利用できるのはうれしい。いつものように囁目三句出し四句選で行われ、緊急事態宣言解除後二回目の吟行会は無事にお開きとなった。帰りはゆつくりと坂道を歩いて下った。

■かさね吟行会■

日時 二〇二〇年九月十一日（金）

場所 東高根森林公園

集合 溝の口 南武線 改札口十一時

申込 森岡陽子宛 (03) 3712・2835

『酔いの徒然』(二〇一) 丸山酔宵子

『外出自粛の酒事情』

6月11日。関東もとうとう梅雨入り宣言。外出自粛が続き、お上の指針に沿って只管忠実に規則正しい生活を送っている毎日である。ステップ3となり、バーやナイトクラブも解禁となり、銀座の馴染みのクラブにも行かねばならぬと思っているが、お目当てのママもマスクを付けて、密着もままならないのではどうしても行く気にならぬ。

もう既に3か月にわたってZoomを使うテレワークで十分事が足り、スーツは全く着ず、電車にも乗らずで、以前のような外出が億劫になってしまった。当初は、いつかはコロナ以前の状態に戻るであろうと単純に思っていたが、世の中は悉く一変し、これが新しい日常であると自覚せざるを得ない日々である。

朝は遅めに起床し、狭い庭先で、スポーツジムインス

トラクターの個人レッスンで教わった柔軟体操を入念にした後、朝食。おもむろに9時過ぎから書斎に入り、パソコンを開けて午前中いっぱい仕事に専念。

お昼のニュースショーを見ながらの遅い昼食後は、サングラスを掛けマスクを付けマウンテンバイクに乗って近くの駒沢公園をゆつくりと一周し、自由が丘周辺を通過して、スーパーに立ち寄り、夜のつまみの魚を買っての約1時間の運動である。

帰宅後、再びパソコンを開け残りの仕事を片付け、5時過ぎからは入浴タイム。スポーツジムも行けず、大好きなサウナにも行けない故、風呂に浸かりながらの読書。汗をしっかりと掻いての入念な入浴後は、いよいよお待ちかねの晩酌である。

まずは、冷えたサッポロ黒ラベル小瓶をグラスに注ぎ、一気に喉に流し込む。「：ゴクゴク：アーツ旨い：」因みに、我が家では30年間サッポロ黒ラベル小瓶をケースで注文し「家呑みビール」として楽しんでいる。

いつもは、ビールの後はつまみとともにワインとなるのであるが、コロナ禍以降は「冷えたC A V A」にぞっ

こん。シャンパーニュと同じ伝統製法瓶内二次醱酵で、味も決して遜色はない。何が素晴らしいかと言えば、シャンパーニュと比べて格段にリーズナブルつまり充分に安いことである。

実は、今は遠い昔になってしまった感があるが、つい、9カ月前の昨年10月末、C A V Aの故郷スペインカタロニア州バルセロナに行く機会があり、4日間にわたって、12か所のC A V A生産者を訪れ、その素晴らしさを堪能してきたのである。

C A V Aの歴史を語れば、カタルーニャにスパークリングワインのシャンパーニュ式製法がもたらされたのは19世紀中頃で、その後1960年代頃まで「シャンパン」(カタルーニャ語: xampany)と呼ばれていた。しかし、フランス・シャンパーニュ地方のシャンパン生産者に抗議を受けたため、カタルーニャの醸造家は、1970年「カバ」という名称を公式に採用したのである。因みにカバ (CAVA) の意味は、カタルーニャ語で「洞窟」「地下蔵」意味していたのである。

であるからして、1000円、率直に申し上げれば

700円程度でも十分シャンパーニュの味わいを堪能できるのであります。

東京アラームのベイブリッジが緑となり、それではC A V Aでカンパニー……。

ペダル踏み新樹の並木光射し

酔宵子

楽しい時間 94

山本紀久雄

2020年7月31日

神にならなかつた鉄舟・・・その二十四

最後の3. 壁画の海舟の刀に位置が、下絵及び画題考証図と異なる置き方にしたのはなぜか。まず下絵を紹介する。



江戸開城は慶応4年(1868)4月11日である。二世五

姓田芳柳はこの史実に基づき、まず『下絵』を二枚描いた。その一枚は上段枠外に「江戸開城(玄関前)」と書かれたもの。もう一枚は絵の上段枠外に「江戸開城」と書かれ、下段右側から「若年寄 大久保一翁」「柳原」「橋本」「田安中納言」「西郷其他」と記されている。三枚目は西郷と海舟の薩摩屋敷である。次に『画題考証図』と『壁画』の部分拡大して比較してみる。



上が二世五姓田芳柳の『画題考証図』、下が結城素明の『壁



「画」である。どこが違っているのか。それは海舟の刀に位置である。西郷は無腰で刀は所持していないが、海舟は『画題考証図』では右脇、「壁画」では左脇に配している。

刀を右脇に置くのと、左脇にするのでは、全く意味が異なる。左脇に置く場合は「直ぐ抜ける」態勢となり「戦う意思がある」と思われても仕方ない。右脇は「戦う意思がない」平和的な会談を示すだろう。どうしてこのような反対の刀の置き方になったのであろうか。

慶応4年（1868）3月14日、確かに三田の薩摩屋敷で二人は会談している。鉄舟も同席しており、西郷の背後には桐野など武士もいた。両者が会談したのは事実であるから、この「壁画」は史実を物語っている。

しかし、刀の位置の違いは、会談の本質的意味を異ならしている。右に刀を置くのは、既に江戸無血開城は西郷と鉄舟による駿府談判で決まっていたのであるから、平和的に江戸城の明け渡しの手続きについて嘆願し交渉する会見と想定できる。

だが、刀を左に置いた描き方は、まだ無血開城が決まっていないので、海舟が決死の覚悟で会談に臨んでいることを表現しようとしたのだといえる。

これを証明するテレビ番組が、BS11の2019年3月3日「壮麗な美術館で日本の歴史を辿る「聖徳記念絵画館」（東京・明治神宮外苑）」というテーマで放映され、解説に登場した同館副館長が『江戸開城談判』壁画の前で次のように力説された。

「この壁画は緊迫した場面を表現しています。それは刀の置き方でわかります。通常は右側ですが、これは左です。こ

の会談が決裂したらどうなるのか。その時は……。という海舟の決意を伝えているのです」と語った。

奉納者の勝家側は「談判」とタイトル化したのであるから、それを強調するためにも、敢えて、刀の作法にしたがわない描き方を結城素明に要望したのである。正に聖徳記念絵画館副館長の発言は、その意図が見事に実ったことを証明している。

改めて思う。『江戸開城談判』壁画は「作られた歴史画」だと。川井知子氏も論文（明治神宮聖徳記念絵画館研究『哲学会誌』第21号平成9年11月学習院大学哲学会）で次のように指摘している。

《絵画館の「壁画」は、教科書をはじめとした、日常的に、不特定多数の人々に触れるメディアによって、「作られた歴史」から、「疑うべくもない正史」となってきたのであり、今後も「史料」として用いられる限り、「正史」として振る舞い続けるであろう》

この通りで昭和10年（1935）、結城素明が描いた『江戸開城談判』壁画が聖徳記念絵画館へ奉納され展示され続けた結果、同館副館長がテレビで堂々と述べたように「嘆願」でなく「談判」と解釈され、教科書にも掲載され「正史」として扱われ、一般国民も普遍的に理解しているのである。残念ながらいまさら聖徳記念絵画館の『江戸開城談判』壁画を修正することは出来ない。無念だが仕方がない。

これで『江戸開城談判』壁画の怪を終りたい。
次号は鉄舟から大きな影響を受けている九代目市川團十郎について述べていきたい。

絹の話 (118)

「アトリエテレビ」今 泉 雅 勝

タイシルクとは

昨今雲囲気の異なる絹織物を見ると、「これはタイシルクですか」と聞かれます。

タイは11種族以上の多民族の国で、民族によって着方、柄、色彩など共通する部分もありますが、大きな違いもあります。タイシルクはどうして誰もが口にするほど有名になったのでしょうか。

戦国時代から江戸初期にかけて南蛮貿易が盛んになり、タイの日本人町を統率して商業活動に奔走した山田長政らが、日本人好みで異国情緒なタイシルクをオランダ船やポルトガル船を通して日本に送ったのが始まりではないでしょうか。

タイシルクの起源

タイを旅行すると地元のマーケットでコーロギなどの昆虫を食用として売っているのを見かけます。

今でも山村の一部では森の野蚕繭を採取して、カッターナイフで繭を切り開き中の蛹のみを食べて、絹を採る繭層を捨ててしまっている部族もあり、タイを含むインドネシア半島では今日でも昆虫食が盛んです。この昆虫食がタイシルクの早期発展の基となったと考えられます。

紀元前揚子江周辺に居住して、クワコの繭の蛹を食べ、口から出る糸を糸いで織物を作る青銅器文化のミャオ族(苗族・モン族の仲間)が鉄器を携えた漢族との闘いに敗れ、中国南部よりタイ北部に逃避行して、その地域に苗族の紬織に刺繡文化と漢族から教わった生糸織りを伝え、それを受けた周辺種族が緞織等を加え、今日のタイシルクに発展したと思われます。

タイシルクの特徴 三眠蚕の黄繭

三眠蚕の黄繭とは、揚子江周辺で発生(1万年位前)したクワコ(現在の繭の祖先)が南に広がり(中国の北に伝播して家畜化されたものが蚕)、熱帯では四季を通じて餌があるので、子孫を増やすため4回休眠せず、3回の休眠で繭になるよう種が変化(三眠蚕)し、さらに強い紫外線等に対抗する為、食物の葉に含まれるカロチンなどの色素を糸の表面のセリシン部取り込み濃黄の繭に変化したものです。この黄繭はタイ北部で養蚕され、各種族が絹織物の糸として使うようになりました。現在では煮繭して糸を揚げ、精練して黄色の色を抜いてから使われています。

黄繭の繭は小型で糸が細いのでしなやかで張りがあり、艶やかです。この生地風の合いがタイシルクの特徴です。

しか近年日本から大型の白い繭の蚕種などが導入され、黄繭より収入が良いので、黄繭の生産量は減少して、伝統工芸を守ろうと云う人々に支えられています。

経糸 緯糸 緞織

タイシルクの織物の基本は極細の生糸の経糸（たていと）と甘撚りの紬糸を緯糸（よこいと）に平織りにしたものです。シャキッとして小さな節が有り、それでいてしなやかで丈夫です。暑い地なので身体に纏わり付かず、冬は以外に寒いので、紬の暖かさの両者を持つ織物です。

着方 色柄

タイシルクと云えば細かい柄の緋模様が中心ですが、各部落によって柄も色彩も異なりますので、着ている物を見れば、どの地方から来た人か判ります。

多くの部族の女性民族衣装はインドのサリーを基本にしたスタイルが中心で、スカート部分とブラウス部分は分離して、サリーのチョリのように身体にぴったりした半袖のブラウスを着て、スカートに合わせたやや厚手の緋のストールを斜交に掛けます。

男性民族衣装はインドの男性のドウテイという一枚の布をパンツの様に履いている姿に似ています。

色彩はえんじ色を中心に黄、茶、赤、等の緋模様と金糸のボーダーなどで、柄には具象模様は無く、縦縞や横縞などが多く見られます。

黒を基調とした種族もありますので一概には言えません。

ジム・トンブソンとタイシルク

アメリカ人のジム・トンブソンはアメリカで建築家として活躍していましたが、第2時世界大戦に従軍し戦後タイの情報部に勤務しましたが、伝統的なタイシルクの美しさに魅了

され、除隊し、旧来のタイシルクに新たな彼の西欧風なデザインを加え、世界に紹介したところアメリカのファッション界で注目を浴び、ハリウッド映画「王と私」の衣装に使われるなどして、高品質で優れたデザインが一躍世界に知られる様になり、衰退しかかった伝統的タイシルク産業の復興に貢献する事になりました。今日、ジム・トンブソンはタイで最も有名なアメリカ人ですが、1967年マレーシアで失踪して以来行方不明となっています。

都内のデパートにジム・トンブソン社の物とよく似た物を並べると、高くても前者の物が先に売れます。

タイのお土産店でも黄繭のものは少なくなりましたので、手触が良く艶やかな物をお選び下さい。

■ 展示、販売、講演会のお知らせ ■

テーマ 「スローファッション from 三河 Cotton & Silk」

会場 「東海道三川宿・商家駒屋 大広間」

<http://www.konaya-futagawa.org/>

日時 9月12日（土）～13日（日）

講演 各日14：00～会場内

12日…三河の木綿と絹の来た道・絹と健康（帆前掛のエニ

シング、遠州木綿、野蚕のアトリエテレビ）

13日…絹から学ぼう！コロナと共に（日本野蚕学会 今泉

雅勝）

本田カイロプラクティック先生の春夏秋冬

本田 勇氣

2020年7月31日

睡眠の重要性

梅雨寒はとてもすこしやすく助かりますね

その為かとにかく蚊が元気です

血液型なのか匂いなのか体温なのか

刺されやすい方 刺されにくい方が顕著にでますよね

人間は睡眠時に身体を治療回復します

寝ても寝ても眠い

という時は身体が本調子でない為

夜の睡眠時に身体を治し切れていない場合があります

そうすると

免疫力が落ちたりするので危険です

1番いいのは施術を受けていただき

身体を万全の状態にして日々の睡眠で神経を健康を免疫を完全に回復する ということです

それ以外では

昼寝をする というのも一つの方法です

ただ

あまり長く寝てしまうと大切な夜の睡眠に差し支えが出てしまいます

ですので

寝るのは 15分〜30分位 15時までにして

脳を休ませてあげて下さい

そうすることで脳が休まり身体に有益な流れが戻ります
寝る前のスマホやパソコンはくれぐれも避ける様にしましょう

今日も笑いながら行きましょう

2020年7月27日

自然な生活

この時期は

寝ても寝ても眠かったり

夜中に何回も起きてしまったり

朝早く起きてしまったり

と睡眠の質が悪くなりがちです

そんな時は

湯船にゆっくりつかり深呼吸したり

寝る前に小便で目が覚めない程度の量の暖かいハーブ

ティーを飲んだり

寝る前にパソコンやタブレットやスマホを見るのを止め

てみます

してみてもいい

そつすることでもリラックスでき

入眠時間も早くなります

雨音を聞きながら5分でも10分でも紙の本などを読むのもお勧めです

たまには

機器からはなれて自然な生活をしてみるのも良いです

よね

今日も笑いながら行きましょ

「江上浩二の独り言」 33 江上浩二

寺田寅彦の「知と疑い」 大正4年

コンサルティングの仕事をしていると、発明とか発見とか知的活動を促進させ、世の中にどんどん新しいものを提供していくことが一見世の中を良くするもんだと信じ込んでいるが、実は特許のような知的財産権を得ようとすることは経済事業活動であり、争い事も多い。昨日2020年06月04日の新聞にノーベル賞学者が実施権を許諾した特許を用い事業化をしている企業を訴えたという。企業がリスクがあるのも承知して、莫大な投資をして製品が良く売れたので、後になって分け前をもっとよこせといったような類にも聞こえる。最初の発明者と発明者の所属している大学と企業との契約内容は知らないが、ある薬品メーカーのオプジーボである。

以前、ノーベル賞を受賞した湯川秀樹の創造性に関する書籍を読んで、はっとすることがあった。時代的にパソコンはまだ無かったが、第2次大戦後暫くして、計算

機が出始めた頃に湯川博士は最近の若い研究者は計算に頼りすぎ、アナログ的な直感をもっと磨いた方が宜しいと指摘されていた。

今回、大正4年（西暦1915年）に寺田寅彦が書いた「知と疑い」という小文を2004年頃青空文庫からテキストに落としておいたファイルがパソコンに眠っていたものを読み返した。直感的にはよくも105年も前に普通に人には分かりづらい表現・語句を引用し寅彦先生も書いたもんだなと思った。しかし、読み直すと小文の内容は非常に重要な発明、発見、創造、そして関連して知恵とかイノベーションを網羅しているものである。私か今使った語句は一切使われていないのである。

それらは寅彦独特の言葉を用い表現されている。その前に、なぜ難解な「知と疑い」になったのか、その時代背景を私なりに説明を加えたい。西暦1915年頃はアインシュタインが一般相対性理論を発表した直後で、そこから遡ること7—8年前、Minkowski（ミンコフスキ）空間（寅彦はWeltという独語を使用）が発表され、数学的に時間軸を加えた4次元空間で示すことが

できると公表された頃であった。数学的には n 次元のベクトルと新たなベクトルの外積をとり、これを \mathbf{R}^{n+1} 次元のベクトルと定義するようなことである。

寅彦は実際どのような語彙を使って表現していたのだろうか。もちろん現代版カタカナ外来語、イノベーションなどといったものはない。(注・イノベーシオンとは *neue kombinationen*、既存の要素で新しい組み合わせを生み出す事、後出—1番目の疑う人) 2004年に保存しファイルには注意事項として太書きした部分(寅彦の文)があつて次に紹介する。

しかして暗は無限大であつて明は有限である。
雨が降つて天気の良い日のある事を知る人の少ない。
疑う人におよそ二種ある。

最初の文など一般人にはチンプンカンプンであろう。無限と有限を寅彦は微分で表現し、おそらく無限とは微分が無限でこれを暗とし、明はすなわち微分が有限な様態を示している。注目したいのは3番目の文、疑う人は

2種類あるという指摘である。

私なりの言葉でいうと、過去の先達が積み上げた知識体系を会得し、研究して新たに発見を加える事(人)と全ての知識体系が完成しもう終わりだと普通は言つてしまふが、そこでさらに何もやることはないとは、おかしいと疑う事(人)の2つがあつて、寅彦は同時にこれら2つの能力を発揮する人は極めて稀であると言つてゐる。寅彦は、寅彦の言葉で 一人にしてその二を兼ねる人ははなはだまれである。これを具備した人にして始めて碩学(せきがく)の名を冠するに足らんか。 と、この小文を閉じてゐる。

知は疑う事から始まる。リングがリングの木から落ちたり、錘を付けた振り子がただ振れていると疑わずに放置したり、天王星の動きが少しおかしいけど、これがデータのバラツキだと判断して疑わず外周の新惑星の発見に至らないとか、古典力学で十分だとか電子運動の実験的解明(疑いを持つ)が無かつたら相対性原理の発見に至らない105年前の平凡な暮らし向きを我々は続けていたかも知れないのである。

漢詩研修 (四十七)

千代田岳精会 平井茂行

夏か日じつ悟ご空くう上じやう人じんの院いんにだい題だいするの詩し

社と

荀じゆん

鶴かく

三さん伏ぶく門もんをと閉とじて一いち衲くわをひら披く

兼かおおて松しょう竹ちやくの房ぼう廊らうをお蔭おら無な

安あん禪ぜんはかならら必かなずらしも山さん水すいをもち須もちいず

心しん頭とうをめつきやん滅めつ却きやくすれはは火ひもま亦また涼りやう

【作者】 杜荀鶴（八四六～九〇四）晚唐の人。字は彦之（げんし）。池州（安徽省）の人。号は九華山人。杜牧の微子（びし）／他家に養われた子をいう）で、杜牧が黃州の齊安（湖北省）から池州刺史として秋浦（安徽省）に転任するとき、妾がみごもっていたのを杜いんにとるがせ、生まれたのが、荀鶴だという。荀鶴は早くから詩名を得ていたが、何回か続けて進士の試験に失敗していた。大順二年（八九一）四十六歳でようやく及第した。その後、朱全忠に気に入られ、朱全忠が梁王となると、翰林学士、主客員外知制誥になったが、朱全忠のお気に入りということを利用して、貴族たちを侮り、その怒りを買って殺されそうになった。軽薄な人柄ではあったが、弹琴もうまく、酒が好きな風流人でもあった。詩は唐末の混乱した社会を詠じたものが多い。著書に『唐風集』二巻がある。

【語釈】 ※院：僧侶の住むところ。 ※三伏：夏至のあとの三番めの庚（かのえ）の日を初伏（しよふく）今の七月中旬）、四番目の庚の日を中伏（同七月下旬）、立秋後の最初の庚の日を末伏（同八月初旬）といい、あわせて三伏と呼ぶ。暑さのもっとも厳しい時期。 ※一衲：僧衣。 ※披：着る。 ※房廊：部屋と廊下。 ※安禪：坐禪。夏にする坐禪のことを夏安吾（げあんご）とか坐夏（げざ）などという。 ※心頭：こころ。心中となっているテキストもある。

【通釈】 暑さのはなはだしい三伏の時節、悟空上人は、山門を閉じ、僧衣をきちんと着ている。その上、強い日差しから住まいをおおってくれる松や竹の樹木もない。だが、座禪して修行をつむには、必ずしも山水の環境を必要としない。心中から暑いという雑念をはらいされれば、火中にあつても涼しさを感じるものだ。

『父』

中屋保之

例年通りの夏がやって来る。が、今年は様相がだいぶ異なる。新型コロナウイルスの蔓延により外出もままならない中で、七十五回目の「夏」を迎える。

私たち昭和二十二年（一九四七）生まれのベビーブーマーは、もちろん直接の戦争体験者ではない。しかし、父親やその兄弟による戦争体験の影響を受けている様に思う。大正五年（一九一六）生まれの父も多くの同年代の方々と同様に、二十歳そこそこから三十前後までの間を戦場で過ごした。まさに青春真っただ中を命のやり取りに直面していたのである。そんな父から、戦争の話を聞いた記憶がない。あるのは、東京・九段の靖国神社での春、秋の大祭にはよく連れていかれ、屋台が賑やかだったのを覚えている。七人兄弟の次男坊であった父は、戦死した兄や仲間の御霊への鎮魂の姿を、身をもって私に伝えたかったのではないかと思う。私が幼少の頃の父はどちらかというと、寡黙でやや短気なところがあり、まだ戦後の闇市の名残が色濃かった池袋の街を足早で歩く父の後をヒヤヒヤしながら、はぐれまいと必死で追いかけたものであった。

近所の幼馴染の父君はよく当時の話をしてくれたが、私の家では殆ど話題に上らなかった。そんな父のもとに、毎年決まった時期（寒かった記憶があるので恐らく正月頃だったろうか）に、部下だった方が訪れて来ていた。父が仕事場としていた四畳半の部屋で火鉢を間に半日ばかりの時間、何を話していたのだろうか。また、まだ本土復帰前の沖繩から、チョコレート、黒糖など当時の本土では珍しいものが定期的に届き、子供心に楽しみにしていたのを今でも覚えている。送ってくれていたのは司令部かなにかで借り受けていた家のお子さんだと語っていた。そ

の時の父は、ちょっと自慢気であった。父にとって触れたくない、触れられなくなかったであろう体験のなかでのこの二つの出来事は深く私の心に残っている。やや大げさに言えば、人と人との繋がりがその後の人生を如何に豊かなものにしてくれるかを学んだように思える。

父も母も富山県の出である。私も富山生まれではあるが、私の記憶は、東京・板橋区の豆腐屋の裏での借家住まいから始まっている。確か、六畳一間に小さな台所だった。暫らくして現在の地に移り住んだ。当時の子だくさんの時代に、我が家は三人家族であった。つまり私は、ひとりっ子なのである。よく「一人だから甘やかされていいね」と言われたものだが、トンとそのような記憶がない。「可愛い子には旅をさせよ」を地でいくように、仕事で上京していた祖父の膝に座って富山へ向かったのが確か、四、五歳だったか。祖父の家の近くの幼稚園で遊ばせてもらったそうである。ありがたいことに、両親の郷里には双方の祖父母やおじ・おば、いとこ達が、また、同年代の子どもたちで溢れていた。それから、毎夏の富山行きが始まる。朝六時上野発金沢行き急行「白山」に、席を確保した父に窓から乗せられる。夏の帰省時期の列車は、立錐の余地もない。しかし、人情は豊かで、父が停車駅とその到着時刻を書いてくれた手帳を握りしめて心細げに一人旅をする私に、「長野まで一緒だから、安心して」と言ってくれた同席の方は、次に同席になった人に「富山に着いたらこの子を降ろしてやって」と申し送りをしてくれるのであった。そして、夕闇の迫る十八時ころ、迎えに来てくれた祖父の元に無事到着するのである。ここでの人との繋がりの暖かさを体験することが出来たのが、私にとって大きな財産となっている。

時折り「えっ、一人っ子とは思えない」とお褒め(?)の言葉を頂戴するが、恐らくは幼く少年期に施された両親の教育の賜物と感謝している。

五十年前、就職試験の折りの尊敬する人物は? という設問に対する答えとして「坂本龍馬」と「父親」と記述した。

疫病禍下に後藤新平を思う

横山精真

検査は断然として 遠征を安んず

化外を大観して 民生を重んず

君に問う今日の 体や何奈

壮胆の傑人 唯 怒声

(語釈) ○検査：日清戦争の際、検査所を設け、厳格な検査をした。○断然：きっぱりとした様。○遠征：日清戦争とそれ以後の遠征。○化外：王化(中国文化・統制)の及ばない所。(明治に到る迄、清国自身が、台湾をそのように言った)○民生：人の自然の性(天性)。人民の生活。○大觀：広く見通す。大局から物事を觀察する。○体：ありさま。○壯胆：壮烈な胆力。○傑人：衆に優れている人。傑物。

(通釈) 日清戦争の時、児玉源太郎の指令で瀬戸内海の小島三つを遠征軍将卒検査の施設にして、疫病から守った。また、台湾経営には同じく児玉源太郎の元、新渡戸稲造を始め優秀な人材をスカウトし、大局からみて現地人の生活習慣を尊重しながら、教育・産業・鉄道・ライフラインその他全般に渡り文化的に導いた。是れが明治時代に活躍した後藤新平の事績の一部だ。

(やる事は断固としている。知識があり、理解者が有り、現実的で胆力があつて初めて出来る仕事だ。又、彼の検査所消毒ボイラーは欧米が見習った。)

その貴方に聞きたい。今日のコロナに対する政治や医療体制、マスコミの有様であるが、如何思われますかと。
たぶん彼の人は

「何をやつとるか!」と大喝、唯、怒声を発するのみであろう。

於疫病禍下思後藤新平

令和二年七月十三日

検査断然安遠征 大觀化外重民生
問君今日体何奈 壯胆傑人唯怒聲

仏像彫刻
(八)



平成19年作
不動明王立像



平成20年作
毘沙門天立像

藤崎
徹

彫刻刀・道具の知識

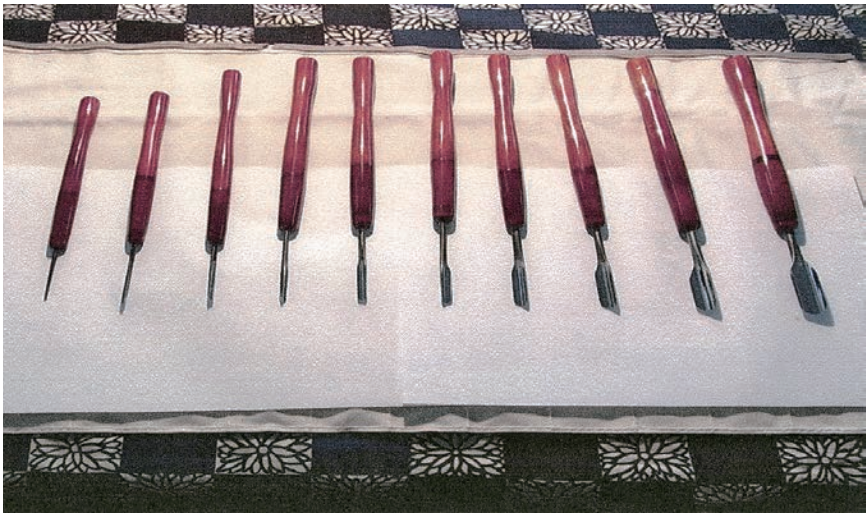
小道具ノミ、彫刻刀、彫刻用叩きノミ（大工用叩きノミとは異なる）があります。小道具ノミは、刃先が長いので大きな仏像を彫る場合に深く彫れます。彫刻刀には、一般用と専門用があります。色々な太さの異なる彫刻刀を必要に応じて用意し、目的の彫りを達成してください。叩きノミは、荒彫に多く使いますが、ゴムハンマー（金槌）で叩きますので早く、大きく、彫れます。

I 小道具ノミ

i 丸刀・普通丸

最左端から

- 1 …… 丸刀（がんとう）・三厘（1mm）
- 2 …… 丸刀（がんとう）・五厘（1.5mm）
- 3 …… 丸刀（がんとう）・七厘（2mm）
- 4 …… 丸刀（がんとう）・一分（3mm）
- 5 …… 丸刀（がんとう）・一・五分（4.5mm）
- 6 …… 丸刀（がんとう）・二分（6mm）
- 7 …… 丸刀（がんとう）・二・五分（7.5mm）
- 8 …… 丸刀（がんとう）・三分（9mm）
- 9 …… 丸刀（がんとう）・四分（12mm）
- 10 …… 丸刀（がんとう）・五分（15mm）



見る (3) 夏 目 勝 弘

何故に俳句には季語が、必要なのかよく分からないまま芭蕉の俳句を読んでいた。

今一つピント来るものを感じないままに、五七五の言葉使い。そしてリズムのみで感じていたと思う。

季語について少し知りたくなり、(日本大歳時記)を読み始めた。それと平行して、芭蕉の霊示集も読みながら、そのなかに(季)は神仏の流転のお姿。のなかに(この「季」、季節感、四季というものであろう)と思います)と

また(これ神の流転する姿であろう。芸術の究極には、やはり神があり、仏がある。神や仏の姿を映し出さないで、一体いかなる芸術があるうか「季」は、すなわち(中略)この一年の中の春夏秋冬のなかに、すべての人生があり、すべての歴史があり、神仏の心の変転の姿がある)と

芭蕉のお言葉を頭に、「夏」の季語から読み始めた。例句を読んでみて、季語の持つ意味が少し分かつてきた気がする。

また、(俳句の条件は、時、所、人の姿の明確さにあり)と、そして俳句は短い文ですが、この中に、やはり人と時と場所、この三つがなければ嘘になる。と

そして(自分に嘘がつけぬが詩の心)と

○五月雨や大河を前に家二軒 蕪村
○菜の花や月は東に日は西に 蕪村

二句とも蕪村の俳句であり、両句とも平面的で絵画的。そのまま、だれもが読んで分かる俳句である。子規は蕪村をよしとしている。

芭蕉は、立体的なものごとを考えていたと思っている。立体的な考え方のなかに、人間として懐の深さがあるように思います。

蕪村派・芭蕉派どちらかといえば新聞の投稿句等も平面的な写生の句が多いように思える。

俳句は少しづつ作ってみてはいるが、写生的な形のものになっ

てしまう。そのなかに心を入れることが出来ない。

季語の使い方も分らない、どうしても短歌の上の句のようになっ

てしまいがち。

そして芭蕉の言葉に(芸術の極致は宗教的なる悟り)というのがある。

三河アララギ、七月号の「水魚」のことから(234) 岡本

八千代氏の文の一節に、

(今にしてまたまた私は驚いている。その驚きは、かなり若い頃から佛教語を知っていることと、いや宗教心を以っていることだ)と。

「赤光」初版跋のなかの一節に(子が未だ童子の時分に遊び仲間

に雛法師が居て切りに御経を誦誦して居た。梅の実をひふにも水を、浴びるにも「しやくしきしやくくわう、びやくしき、びやくくわうし」と誦して居た。

「しやくくわう」は「赤い光」の事であると知ったのは東京に来て(以下略)。とある。

この雛法師は歌集「たかはら」の歌にある薩應上人ではないだろうか。

芭蕉の句に

○荒海や佐渡に横たふ天の川

これは宗教的なる悟りであろうと思う。人間は、自然を見つめるなかに、それだけこの五尺の体から抜け出すことができたかというところが、その人の大ききにもなる。

大自然の心を詠み、佐渡の心を詠む、また天の川を詠む。その奥に神仏の心がある。

平面的な表現に、奥行を入れたい、神仏の念を入れた作品に近づけるように努力するしかない。

「氷魚」のことから (236) 岡本八千代

恐ろしい新型コロナウイルスに世界中の人々が苦しみ、心配しながら生活してゆかねばならない。…。このような時なのに私、どうやら「氷魚」の稿が書けそうだ。感謝だ。

茂吉記念館よりのカレンダーに七月八月として、次のような歌が茂吉にあった。

しづかなる光は夜にかたむきて

おどろがうへの露を照らせり。 茂吉

これは第六歌集「ともしび」所載の歌で、大正十四年の作である。作歌の期日は、八月から九月にわたり箱根の強羅に滞在した折の作品である。茂吉が四十歳から四十七歳の時期に当るらしい。歌の中の「おどろ」は、草木がぼうぼうと乱れしげっているさまのことで、また、「光は夜にかたむきて」は、月が西の方角に次第に移動することで、夜更けを意味している。

私も、昨夜の十時ごろと今晚の月の動きを見に外に出て空を見上げたが、まだ歌にはならないようだ。しかし、雲の動きによって、月の光が、明るく光ったり淡々しく光ってみえたりして、ちよつとした私なりの感動を得たような気がした。昨夜の西浦のわが庭から見た月も、忘れがたい光ではあったと思う。

さつそく、暦を見たら旧暦八日月であった。まだこれから十三夜、十五夜の月となってゆく月であった。しかし、昨夜

見た月も今夜見た月も私には美しいなあーと思わせた。旧暦八日の月はまた上弦の月とも言う。これから丸くなってゆく月だ。やがて十三夜の月、満月となってゆく。月を見上げるたびに、人間のそれぞれの想いが浮かぶことだろう。そのようなことから、科学と心の結びつきの面白さが湧くのかもれない。

ところで、来年は、日本人で月の探索に行く人があるらしい。しかし、月への夢は失いたくないと私は思うのだが。再び、茂吉の歌にもどってみよう。まずは茂吉の「しづかなる光」の歌を変体がなで書いてみると、

し徒かなる光盤よ盤爾可多無きて

於登ろ可うへ能露を照らせり。 茂吉

となる。研究してゆくならば面白いものだ。

茂吉という人の男の中の男としての感情とすぐ涙するような女らしさがからみあつていて、それが私には魅力とも思える。

茂吉いう人は、男らしさと女々しさとが如実にからみあつて、ついに偉大な人と成つてはいつたけれど、ここで忘れてはならないことは、十三歳ちがいの若い妻輝子の蔭の力もあつたことを思う。茂吉三十二歳、輝子十九歳の時に結婚した二人であった。輝子は斎藤紀一の次女であった。本を読んで知ったことは、美人とは言えないまでも、なかなか才気ある明るい人柄であつたらしい。輝子の身近かにあつてこそ、茂吉の偉大さが成つていったかもと私は思う。ああ、人の運命は、それこそ自然法爾と言えるかもしれない。

編集室だより【二〇二〇年七月】

今泉 由利

○「もう！社会的なことは何もしたくない」だから「何もしなくても良いのだ！」と思っていたら、まだ、終りにしてない会社の「確定申告」を、しなければいけなかった。「会計さんが来て下さって、コロナの日を籠り、義務を上手に果たすことが出来た。続いてきて、続いてゆくことのなかについて、ホッとするのだった。

○40億年前は、原始ウイルスは、単細胞だった。20億年前は、地球の全球凍結だった。5億5千万年前は、カンブリア大爆発だった。ウイルスは、どうしたら大繁殖出来るか？が目的で存在していると。7月はじめの私の日記に、こんなこと書いてあった。

○歯科へゆく。入口のアルコールで身を清め、体温を確かめ、ヨード系だと思いう液で、ぶくぶく。そして、何困ることなく終了。

○日本の性能の良いマスクなど、NYに送りたい、と思っただ。今までのように、郵便局へ行くと「航空便は受け付けません」「船便しかありません」「いつ着くかはわかりません」という。あきらめて帰ってきた。NYからは、どんどん送られてくるのに！

○檜正目の角材から、左手に蓮の蕾を持っておられるお姿の、聖観音菩薩像を彫りだそうとしているところ。仏像とは、両性を超越された存在だそうです。でも、仏様には、ランクが設定されています。聖観音菩薩は、二番目のランクに当たられるのだそうです。

先に彫りあげた釈迦如来像が、悟りの境地に至られた、一番高いランクにおられるのだそうです。

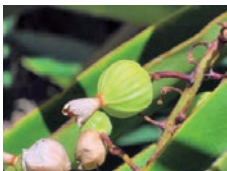
檜の香りにつつまれて、何もかも無くなって彫っていることは、とてもとても、ありがたい。食欲も思欲も無く、気が付くと、5時間も6時間も過ぎていく。仏様が出来あがってゆく事実だけが残って。

○ペルセウス座流星群の流れ星のことから、私としては、物理的に一番星々に近付いた、アルゼンチンから、日本の父母の下への飛行機タイム。毎月々ほどのことだったから、どれほどの回数になったことか！

○昔は、飛行機の窓を、カーテンやブラインドなどしなくても良かったから、一万メートルの上空から、ずつと地球を眺めていた。

赤道を越える辺りから。南十字星が横たわった姿で見えはじめる。すこしづつ、少しづつ。十字の形が起きあがってくる。十字の形が正しくなると、アルゼンチンに着くのです。大急ぎで、ブエノスアイレスの自宅に帰り、ブラインドを開けると、正面に正確な南十字星が待っていて下さるのでした。

野菜・果物・まんだら (31) 月桃 (ゲットウ)



- ショウガ科・ハナショウガ属。
- 学名Alpinia zerumbet
- 常緑性多年草。葉は楕円。緑。艶。
- 5~6月。穂状の花序、たれ下る。
- 熱帯から亜熱帯に分布。日本では、沖縄、奄美地方、九州南部。
- 葉の成分に、防虫、防カビ、抗菌作用など。
- 発がん防止。脂肪吸収抑制。
- 月桃茶によって、太りにくい体質に。
- アトピー性皮膚炎、ニキビや皮膚障害、かゆみ改善。
- 保湿機能、血圧降下、血糖値降下、利尿作用、身体を温める。
- 種を焙煎して、健胃調整、ストレス緩和。
- 葉から油がとれ、アロマオイル、香料、虫よけ。
- 栽培されることはあまりなく、野性のものを収穫する。 奄美大島の郷土料理「ふちもち」のつくり方 島もち粉に加計呂麻黒糖を入れ、ゆでた蓬のつぶしたものをまぜ、耳たぶほどにこねて、月桃の葉に包んで、30分ほど蒸す。
- 当においしいのです。いつでもいつでも「ふちもち」食べたい。すぐ飛行機に乗りたくなるほど好きです。
- 母が奄美大島の泥染紬が大好きで、大島にあこがれていたから、私の織物、染物調査と出掛けて「ふちもち」に出逢えたのです。月桃という、夢のような植物にも出逢えました

今泉由利

「三河アララギ」について

◇三河アララギ発行所 〒一四・〇〇二二

東京都北区王子本町一・二六・六・A

TEL (〇三) 五九二四・二〇六五

◇URL <http://imaizumiyuri.jp/>

E-mail yuriiimaizumi@jcom.zaq.ne.jp

◇編集・発行 今泉由利・森岡陽子

◇三河アララギ誌は毎月発行します。

◇会員・今まで会員の方。希望される方。

◇会費制 廃止。

◇新しく購読を希望される方 一ヶ年五千円。

◇振替口座 〇〇八三〇・六・五六二二九

◇原稿送付先 〒一四・〇〇二二

東京都北区王子本町一・二六・六・A

今泉由利 宛

◇原稿は毎月末日までに郵送下さい。